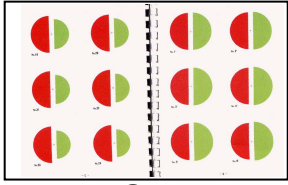


不等像の検査 (NEW ANISEIKONIA TESTS)

目的

不同視の可能性のある症例に対して近視の不等像視が許容範囲を超え、両眼融像(立体視)が損なわれな
いかの把握(特に眼鏡・CLの装用時や片眼無水晶体
眼等の不等像視の検査)

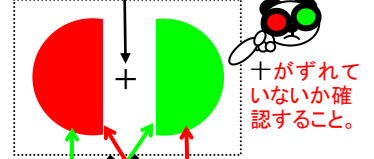
準備物 赤緑眼鏡(必ず付属のものを使用すること)・New Aniseikonia テスト



距離は厳密でなくとも良いが約 40cm
にて屈折異常がより正視に近い方の
眼に緑ガラス(赤半月が見える)、他眼
に赤ガラス(緑半月が見える)を装用さ
せて、紙面と視線が垂直になるよう
にしてNo.0の図を見させる

赤半月を基準にする
が、屈折異常が不明の場合
どちらに装用しても可。
また裸眼でも眼鏡でも検査
OK だが、眼鏡を装用する時
はレンズ中心で見ること。
また頂間距離の影響が出る
ので、赤緑眼鏡を外側に。

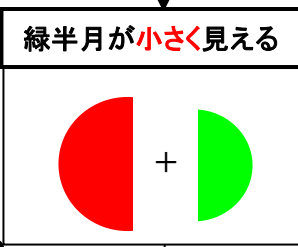
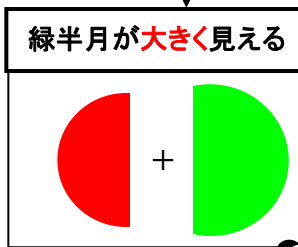
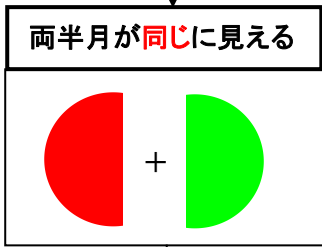
両眼で見える部分。(融像図形)両半月の
位置のずれを防ぐ為。ただし斜視は無理。



抑制がかかり易いので
検査前、各眼を遮閉して
各々半月が見えて
他方が消えている
か確認すること。

YES NO
両半月が同じ大き
に見えるか?

* 右眼に赤ガラス(緑半月が見える)装用
の場合



片眼だとこの矢印の方
は同化して見えない

実際の見え方
両眼重なりと。紙面は両眼では
赤緑混色となり
白色となる

赤ガラスからの赤光は白い紙が全体的に赤
色となり緑半月は赤色と混ざって黒色とな
る。そして赤半月は紙の赤色と同化して消え
る。他眼も同様である。紙面は赤と緑が混ざ
って白色となる。この表の場合、常に赤半月
(緑ガラス装用眼)を基準とするので注意。

不等像 0%

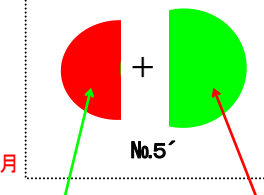
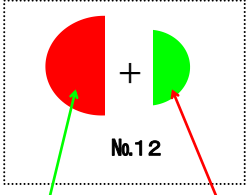
緑半月(赤ガラス装用眼)
の像が大きい

緑半月(赤ガラス装用眼)
の像が小さい

赤半月(緑ガラス装用眼)
基準での緑半月(赤ガラス
装用眼)の大きさだよ!

例) 右眼 +12% の不等像

例) 右眼 -5% の不等像



No. 1 ~ No. 24 まで順次各
図を見せて、両半月が同
じに見えるまで続ける

No. 1' ~ No. 24' まで順次
各図を見せて、両半月が
同じに見えるまで続ける

実際はだんだん緑半月
が小さくなるよ。

実際はだんだん緑半月
が大きくなるよ。

例) No. 12 で同じになった!

例) No. 5' で同じになった!

同じ大きさに見える範囲
をNo. で表記する場合もあり。

そのNo. の数字が緑ガラス装用眼(赤半月)を基準とした
赤ガラス装用眼(緑半月)の不等像(単位は%)

記載例)

New Aniseikonia Tests(NAT)
R: +12%
(赤ガラス眼)

New Aniseikonia Tests(NAT)
R: -5%
(赤ガラス眼)

赤半月眼(左眼)に比べて緑半月眼(右眼)
が5%小さく見えているという表現だが本当は
右眼像を5%大きくすれば左眼像と等しくなると
いうことである。(こちらが取り扱い規約に合致)

注意!!

注意!!

不等像の取り扱い規約によれば、上の場合縮小
する方法をとっているが、不等像の取り扱い規約
では何%拡大したら等しい大きさになるかで本来
表示する。

許容範囲: 通常 5~7%

不同視によって生じる不等像視は、軸性(主に先天
性)は眼鏡が適し、屈折性に対してはコンタクトレン
ズが適すると従来は言われていたが、補償効果により軸
性の場合でもCLが良いとの見解あり。

不等像の取り扱い規約によれば、何%拡大した
ら等しい大きさになるかで本来表示するのでマイ
ナス表示はない。上の場合、通常R5%と表示
される。

難波哲子:眼科検査法ハンドブック第4版P126

難波哲子:眼科検査法ハンドブック第4版P126

判定例)

両眼視が出来ない可能性あり

許容範囲である

自分の結果を書いておこう!

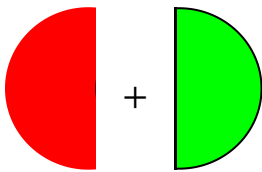
余談)



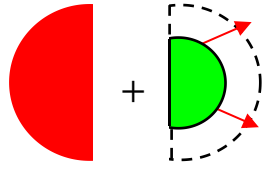
New Aniseikonia テストの場合、常に同じ大きさ(赤半月)を基準としての拡大・縮小率で表すが、規約では常に大きく見える方を基準に小さく見える方の拡大率だけで表示するので、基準の大きさが一定ではなく、New Aniseikonia テストの縮小率の数値は規約の数値とは違ってしまいうでしょう。

New Aniseikonia テストの場合

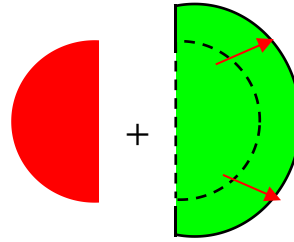
○赤ガラス装用眼(緑半月)の像が小さく見える場合



実際の図

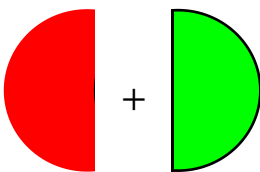


被検者の見え方

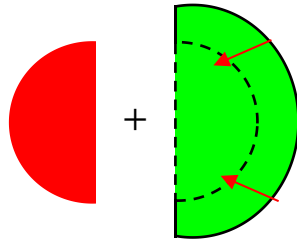


実際は基準の大きさ(赤半月)から拡大して、同じ大きさとなる緑半月を調べる

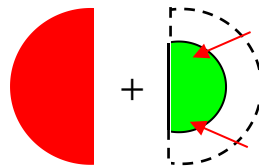
○赤ガラス装用眼(緑半月)の像が大きくなる場合



実際の図



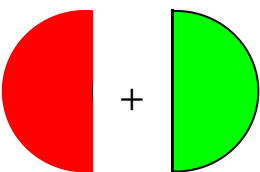
被検者の見え方



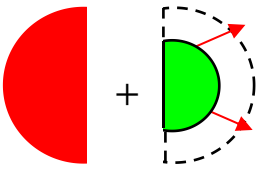
実際は基準の大きさ(赤半月)から縮小して、同じ大きさとなる緑半月を調べる

常に像が大きく見える方(不等像の取り扱い規約)を基準とした場合

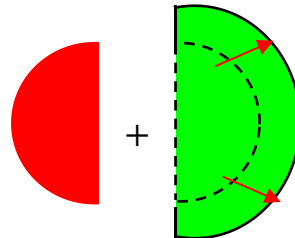
○赤ガラス装用眼(緑半月)の像が小さく見える場合



実際の図



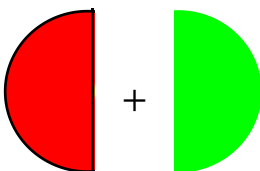
被検者の見え方



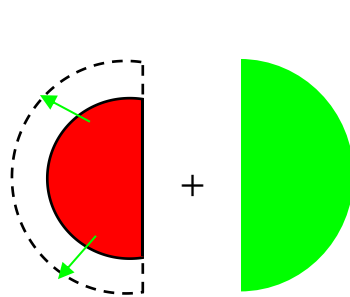
上記と同じで

基準の大きさ(赤半月)から拡大して、同じ大きさとなる緑半月を調べる

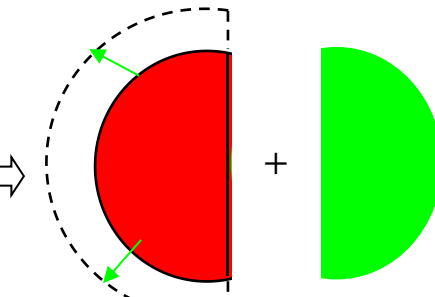
○赤ガラス装用眼(緑半月)の像が大きくなる場合



実際の図



被検者の見え方



基準の大きさ(緑半月)から拡大して、同じ大きさとなる赤半月を調べるのが規約である



%が変わるね!

例) New Aniseikonia テスト R +8.0%は、

右眼像を 8%小さくすると左眼像と同じ大きさに見えるということ。

右眼像の直径 4cmの半円を 8%小さくした直径 $4 - (4 \times 0.08) = \text{約 } 3.68 \text{ cm}$ と同じ大きさに見えるということ。

取扱規約だと $4 - 3.68 \times 100 \div 4 = \text{R } 8.696\%$ **R 8.696%**と、しなければならない。